



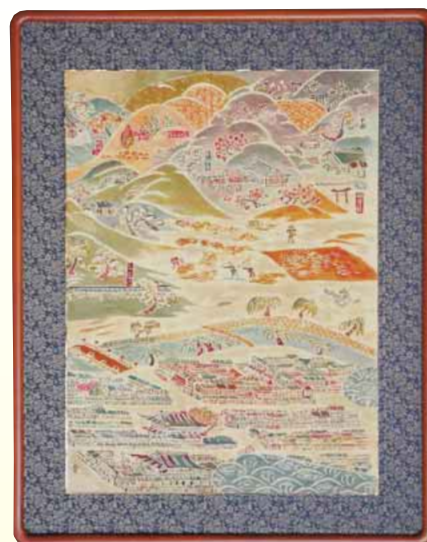
「丹頂鶴」折り紙細工
江草孝美さん(備中町平川)



「手作りメッシュかばん」
流田織里枝さん(成羽町羽山)



「白鳥」折り紙細工
野田義計さん(有漢町上有漢)



松本 幸さん(落合町阿部)
「洛中洛外」絵更紗染



「ユニオンビール」 ホーロー看板

解説…ユニオンビールは1922年に当時の日本麦酒醸造株式会社から発売され、特に大正から昭和初期にかけて人気の高かったビールです。
この写真の看板は、希少のホーロー看板です。

解説・写真
井上明彦さん(備中町平川)

ミニ★ピクアズ



「万葉歌一〇五三」書道
大森多壽子さん(巨瀬町)

作品の募集について

- 【文芸】短歌、俳句、川柳など
 - 【作品】絵画、工芸品、町の風景写真など
 - 自作の未発表作品で、一人一作品とします。
 - ギャラリーの作品については、その写真をお送りください。
(撮影が困難な場合は、ご連絡ください)
 - 住所・氏名・電話番号・作品の場合はタイトルを明記のうえ、お送りください。
- ※締め切り掲載号の前日の末日(必着)

- 【送り先】〒716-8501(住所不要)
高梁市役所企画課公聴広報係
- ※応募多数の場合は、紙面に掲載できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ※提供いただいた写真等は返却できません。
- 問い合わせ 企画課公聴広報係 ☎0210
Eメール: kikaku@city.takahashi.okayama.jp

市民のページ

文芸たかはし

(敬称略)

短歌

髪の毛にシャボンの淡き匂いする子達と和太鼓今日も打ちおり
坂田 昭夫 (松原町大津寄)

物愛いか梅雨の晴間の庭に立ち夫は小花をじつとみつめ離れず
田中 弘子 (川上町領家)

靖国の兄にいとこに戦友の犠牲を語り次世に託す
原田 由き (高倉町飯部)

遠く住む友より届きし絵手紙に熟れて優雅な甘柿ひとつ
平 初音 (高倉町田井)

此の秋は国体と云う花うえて見上げる空にはと咲かそう
森崎 道子 (宇治町宇治)

俳句

夫と娘と臥牛の山肌登り行くはずむ心と重たき足よ
亀石恵美子 (川上町仁賀)

田草引く媪の背撫で青田風
長原 茂子 (備中町西田野)

年老いぬ心を語る我子もなく
平松 幾代 (長寿園内)

ばけ病どの人見てもみな我子
牧 久江 (和田町)

朝顔や一輪深き淵の色
榊上 秀雄 (備中町西山)

川柳

ぶらさがる毛虫吹かれて次の枝
結城 成子 (宇治町宇治)

故郷の方言懐かし電話口
中島 清市 (成町吹屋虫身)

親父似のハゲは形見と思ってる
長谷川祐子 (成町下原)

激戦下我が青春むなし六十年
藤井タツ子 (備中町西山)

地名とよるし

十、垣

有漢町に「垣」という地名があります。県道高梁旭線を有漢川に沿って北東へ進み土居の集落を過ぎると、北から流れ出る川関川に沿う県道栗原有漢線の分岐点(川関口)に差し掛かる。有漢東小学校や岡山自動車道の高架橋が見える場所でもあります。高梁旭線の道路に沿って山を背にした家並みが「垣元」、「垣上」と続き、南側の丘陵には「垣」の集落が点在しているこの地域が有漢町有漢の「垣」地名の中心地域なのです。

「垣」付近は、吉備高原を開析して流れる小さな河谷、有漢川流域の河成段丘面と、侵食された小起伏の丘陵地形面で、枝状に多短谷が展開する地域と成り、海拔二〇〇〜四五〇メートルの地域なのです。

「垣」の中世は、「有漢保」という京都天龍寺の荘園だったといわれています。近世になって備中松山藩領となつた元禄八年(一六九五)の検地帳には、有漢郷六か村をあげ、その一つに「垣村」が書かれ、石高八八一石余りと記録されて、慶長七年の小堀検地の時の三九石余りの倍以上に増加しています。庄屋は彦兵衛となっています。

(有漢町史)後の延享元年(一七四四)からは伊勢亀山藩残領として中津井陣屋の支配地となり、幕末を迎えますが、天保五年(一八三四)の「天保郷帳」によると村の石高八八一石余りと記録され、「旧高田領取調帳」(慶応期)明治四年(一八六五)にも同じで変化がないのです。当時の「垣村」は垣、小宗、鳥居の木、石寺、金倉、加瀬尾、大石、中尾、奥谷、大谷、有山(上房郡誌)の地区で構成されていました。元禄期には、村の屋敷数は一二

二戸、土地持百姓一三八人(有漢町史)と記録されています。

そして、近世の有漢郷六か村のうち、長代、川関、垣の三か村は明治九年(一八七六)上有漢村となり、「垣」地区がその中心で、村役場もここにありました。今でもこの地域には共同でまつる外荒神(屋外でまつる)社が残り、昔の荒神講(荒神信仰)の面影をとどめています。「垣」にも裏山に沿った旧道のほとりに荒神社がまつられ、年三回のまつりをしていて「荒神下」と呼ばれています。

「垣」という地名は、大変興味深い地名なのですが、「垣」「柿」「搔」などの文字がよく使われていろいろな説があつて難しいのです。

①には、囲まれた場所の意味で、垣根とか塀を意味するもの。蛭田禎男さんは「有漢点描」に言い伝えとして残る地名説の例を書かれています。また、「有漢町史」に「集落と集落の交流の障害になつて来た」からとか「垣をめぐらした大きな屋敷があつた」からなどの例をあげています。

②柿の木が多いところ。

③「かけ」「かげ」は、「欠け」の意味から来た崩崖・崩壊地形を意味し、山や崖が崩れやすい地域とか過去によく崩れたことのある地域につけられる自然地名で、地形から見るとこの意味が妥当なのかも知れません。

(文・松前俊洋さん)



垣元、垣上方面を望む